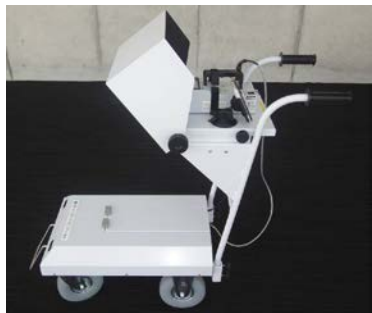


## ■ 高速ホットスポットモニタ R-eye (アールアイ)



汚染箇所上で台車を動かすことで、楽に高速にホットスポット探査ができる。

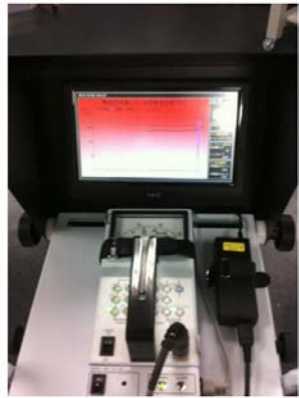
- 従来のサーベイメータ※1より、10倍近くの測定スピードで、移動しながら放射線量の測定を可能とする。汚染箇所（ホットスポット）の確認が短時間で可能となる。

※1 簡易的に放射線を測定することが可能な、小型で持ち運びの容易な放射線測定器

【課題】 従来のサーベイメータは10秒から30秒程度静止していなければ、正確な値が出ないため、広い面積の探査には膨大な時間と作業量が必要である。

⇒ ・サーベイメータを移動させながらも静止させた時と同様に値を求めることができる予測応答原理※2（特許取得）を開発。[2013年論文発表]

※2 放射性物質を感じると指示針が動くが、測定値が安定（30秒ほど）するまでの時間を短縮するため、変化が起き始めた最初の1秒間の針の動きから最終的な値を推定する原理



ホットスポットがない場合  
(画面は緑色)

ホットスポットがある場合  
(画面が赤色に反転、  
予測計数率を表示)

- ・従来のGMサーベイメータ（直径5cm）で1分3m程度の探査能力に対して、1分で30m（16cm幅、時速1.8km）の探査が可能に。
- ・R-eyeを活用する事で、10倍以上の高速化（測定時間を約1/10に短縮）を実現。効果的・効率的な除染作業が可能に。

## ■ 従来型のサーベイメータ

サーベイメータを持ちながら、10-30程度静止して測定し、別の場所に移動する、ということを何度も繰り返すので、時間と労力が必要。



放医研と天野研究所の共有特許を実施許諾。  
応用光研工業株式会社より2014年度製品化